

かわさき区の宝物シート

宝物No.
23-1

たなかのりょう(たなべけぼしよ)

田中の寮(田辺家墓所)

エリア	田島地区	シーズン	通年
	小田・浅田	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区小田2丁目
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	川崎駅よりバス「京町」下車徒歩15分



基礎情報

■小田2丁目18番地付近、小田進栄会商店街の道に面した路地の奥には、畑家とともに代々小田村の天領の名主をつとめた旧家・田辺一族の墓所がある。「田中の寮」と呼ばれ、田辺佐五右衛門をはじめ代々の田辺家と田辺家に仕えた人々が安らかに眠っている。

■田辺一族は中世の終わり頃、小田へ移住してきたと伝えられる。現在も川崎区内で唯一「新田」がつく地名として残る産業道路南の田辺新田は、田辺佐五右衛門が天保年間(1830~43)後期に開墾した江戸時代最後の海浜新田となった土地である。現在の小田7丁目を含む32町歩(約31.7ha)という広大な土地であった。

由来・エピソード

■約3000坪あった田辺家の屋敷地には80本ほどの松の大木が植えられ、大きなものは京急・鶴見市場駅から望めたという。大空襲によって家屋や土蔵、古文書、武具・刀剣類などほとんどを焼失してしまい、戦後の昭和27年(1952)に屋敷地跡ならびに富士電機の社宅があった場所に新設されたのが現在の浅田小学校である。田辺家本家は中原区新城に移転し、田中の寮は田辺家の内墓(個人管理の墓)から菩提寺である曹洞宗宝泉寺(鶴見区下末吉)の境外墓地となったが、分家の田辺富夫さんによって手篤く日常の維持管理がなされている。

■墓所の入口右手には明和7年(1770)に田辺家によって祀られたというお地蔵様が鎮座している。明治・大正の頃には“いぼとり地蔵”として信仰されていた。昭和37年頃に商店街からの地蔵の縁日をしたいという申し出を受けて墓所内から移したといい、一時期はのぼりが立ち、夜店で賑わった。

■田辺新田は、大正12年(1923)に日本初の日独合資会社として知られる富士電機製造(株)(現在の富士電機グループ)に産業道路以南が工場用地として譲渡された。富士電機製造は、陸海運輸に便利な条件を備えた「橘樹郡田島村田辺新田浅間前耕地」48,030坪を工場用地に選んだ。当時は大水害後の荒廃した水田地帯であったといい、直ちに着工の手筈は整えられたものの直後の大震災の発生によって中断を余儀なくされた。幾多の障害を乗り越え、大正14年(1925)4月に富士電機川崎工場は完成を迎え、現在に至っている。

補足・その他

--

関連シート

(8-3) 成就院 (8-6) 畑家墓所と頼政塚 (23-4) 田辺新田
--